

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2012年3月)

発表日2012年4月12日(木)

～原油価格の高騰を反映して高めの伸び～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 星野 卓也  
TEL : 03-5221-4526

(単位: %)

		国内企業物価				国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価	
		前期比	前年比	最終財 (国内品) 前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
10	10月	0.5	0.9	0.8	▲0.4	0.3	0.6	▲0.6	▲4.7	▲1.4	2.5
	11月	0.0	0.9	0.0	▲0.3	0.0	0.5	1.2	▲3.2	2.7	4.4
	12月	0.4	1.2	0.2	▲0.2	0.3	0.7	1.1	▲2.1	2.9	4.4
11	1月	0.6	1.6	▲0.2	▲0.1	0.5	1.0	0.1	▲3.5	2.8	5.5
	2月	0.1	1.7	0.1	0.0	0.1	1.1	1.1	▲1.5	1.9	8.2
	3月	0.6	2.0	0.4	0.5	0.6	1.5	▲0.1	▲2.0	1.7	10.0
	4月	1.0	2.6	0.2	1.2	0.8	2.1	2.2	▲2.9	5.9	9.9
	5月	▲0.2	2.2	▲0.4	0.7	▲0.2	1.6	▲2.0	▲2.7	0.5	10.2
	6月	0.0	2.5	▲0.1	0.8	0.0	1.9	▲0.6	▲2.1	▲1.7	11.0
	7月	0.0	2.8	▲0.1	0.9	0.0	2.2	▲1.4	▲1.1	▲0.4	13.3
	8月	▲0.2	2.6	▲0.3	0.7	▲0.2	2.0	▲1.8	▲1.4	▲2.2	13.0
	9月	▲0.2	2.4	0.0	0.6	▲0.1	2.0	▲0.8	▲1.8	▲2.0	10.9
	10月	▲0.5	1.6	▲0.4	▲0.6	▲0.5	1.2	▲1.1	▲2.3	▲0.6	11.8
	11月	0.0	1.6	▲0.1	▲0.7	0.0	1.3	0.1	▲3.3	0.1	8.9
	12月	▲0.1	1.1	0.0	▲0.9	▲0.1	0.8	▲0.1	▲4.5	0.9	6.7
12	1月	0.0	0.5	▲0.1	▲0.8	▲0.2	0.3	▲0.6	▲5.2	▲1.7	2.1
	2月	0.2	0.6	0.3	▲0.6	0.2	0.4	2.8	▲3.5	2.3	2.5
	3月	0.6	0.6	0.4	▲0.6	0.5	0.3	3.6	0.1	6.0	6.9

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)の前期比は夏季電力料金調整後の値。

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

## ○3月の国内企業物価は前月比+0.6%と高い伸び

3月の国内企業物価指数は前年比+0.6%とコンセンサス(同+0.4%、レンジ:同+0.1%~+0.8%)を上回った。前年比でみた伸び幅は昨年の上昇の裏が出る形で2月(同+0.6%)から横ばいとなったが、前月比で見れば+0.6%と明確に上昇した。

前月比の内訳をみると、プラスに寄与したのは、石油・石炭製品(前月比+6.7%、前月比寄与度+0.47%ポイント)、非鉄金属(前月比+2.0%、前月比寄与度+0.05%ポイント)、スクラップ類(前月比+4.8%、前月比寄与度+0.03%ポイント)、化学製品(前月比+0.4%、前月比寄与度+0.03%ポイント)など、マイナスに寄与したのは、鉄鋼(前月比▲0.8%、前月比寄与度▲0.05%ポイント)などであった。

3月は原油価格の高騰によって、ガソリンや軽油などの石油・石炭製品が高い伸びとなり、3月の上昇の殆どはこれによって説明できる。その他、原油価格の高騰が波及したことでベンゼンなどの化学製品が上昇したほか、国際価格の上昇により非鉄金属も上昇した。一方で、鉄鋼は在庫調整の難航などを背景に6ヶ月連続の前月比マイナスとなり、弱さが目立っている。

## ○消費財の国内品は前年比▲0.8%

国内品を需要段階別にみると、素原材料は前年比▲1.9%(前月比+0.9%)、中間財は同+1.4%(同+0.5%)、最終財は同▲0.6%(同+0.4%)となった。足元の原油高による影響などから、中間財価格はこのところ上向きの動きが目立つ。消費者物価と関連が深い消費財の国内品価格をみると、前年比▲0.8%、

前月比+0.6%となった。ガソリン価格の上昇などを背景に、前月比では2月から上昇した。今後、原油価格の上昇が川下製品へ波及していくことで、消費者物価にも上昇圧力がかかる可能性が高いだろう。

### ○原油高や円高修正の影響から輸入物価は高い伸び

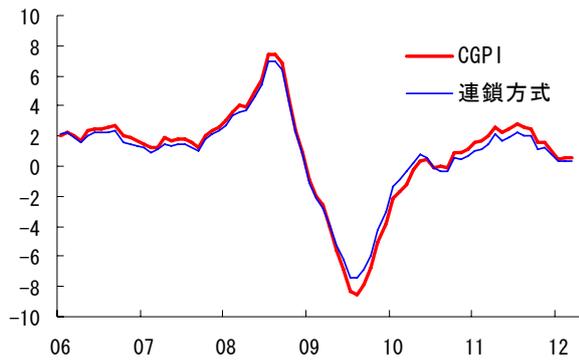
輸入物価（円ベース）は前年比+6.9%（前月比：+6.0%）となった。このところの原油高の影響から、3月は原油や液化石油ガス、ナフサが前月比プラスとなった。加えて、円高修正が円建ての輸入価格の押し上げ要因となっており、輸入物価は上昇が続いている。また輸出物価（円ベース）は前年比+0.1%（前月比：+3.6%）となった。円高による押し下げ圧力が弱まったことなどを背景に前年比では25ヶ月ぶりにプラスに転じた。

### ○徐々に上向きの動きへ

このように3月の国内企業物価指数は、石油・石炭製品価格などの上昇を主因に前月から上昇した。従来筆者は、昨年の上昇の裏が出ることによって、前年比でみた伸び幅が縮小へ向かうと想定していた。だが原油価格高騰の影響により、足元の国内企業物価は筆者想定よりも強い動きとなっている。

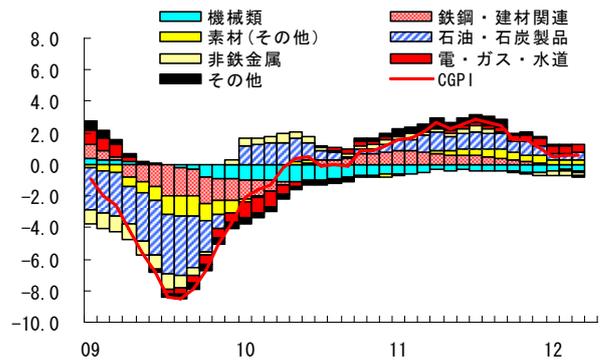
先行きを展望すると、昨年の裏による影響と原油価格の上昇による影響が綱引きをすることで、前年比では一進一退の展開が予想される。その後は年後半にかけて、①昨年の裏の影響が剥落していくこと、②海外経済の持ち直しが予想されること、などから徐々に上向いていく可能性が高そうだ。なお、原油相場は引き続きイラン情勢によって左右される可能性が高く、先行きの高騰リスクは残っている。原油価格は川下製品への波及を通じて国内企業物価に幅広く影響を与えるため、その動向に注意が必要だ。

国内企業物価指数（前年比、%）



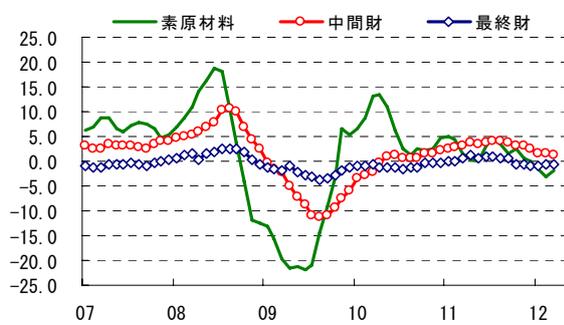
（出所）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価寄与度分解（前年比、%）



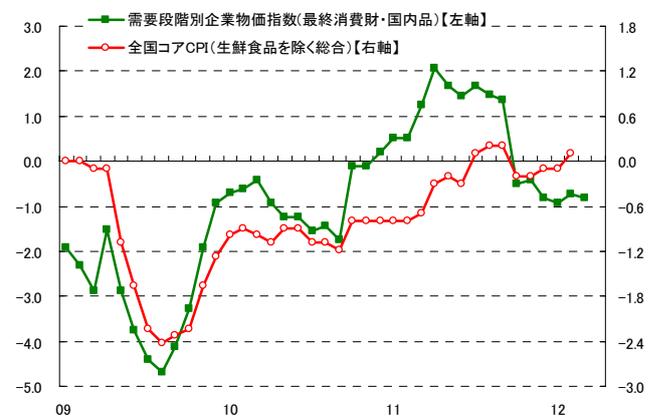
（出所）日本銀行「企業物価指数」

需要段階別指数前年比（国内品、%）



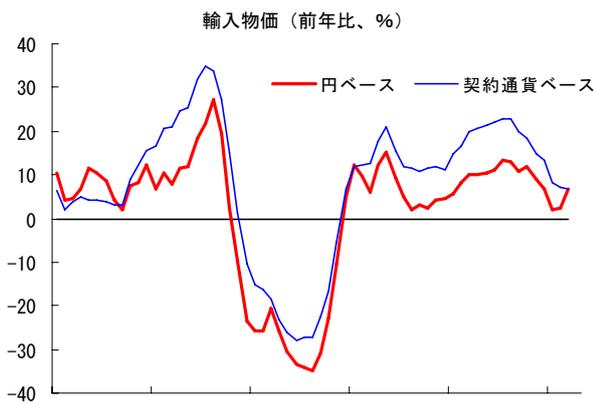
（出所）日本銀行「企業物価指数」

コアCPIとCGPI(最終消費財・国内品)（前年比）

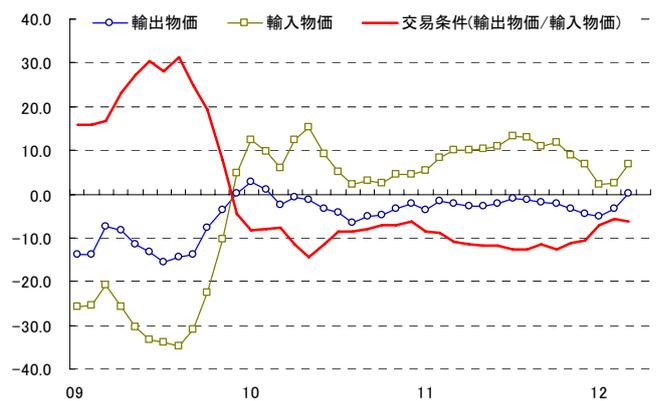


（出所）総務省「消費者物価指数」、日本銀行「企業物価指数」

輸出入物価の推移（前年比、%）



（出所）日本銀行「企業物価指数」



（注）輸物価・輸入物価は円ベース。  
（出所）日本銀行「企業物価指数」